

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790400059		
法人名	医療法人社団 純心会		
事業所名	グループホームねんりん		
所在地	香川県善通寺市中村町849		
自己評価作成日	平成28年10月1日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/37/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成28年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様が安心して暮らせるよう、緊急時には医療機関と連絡をとりあい、対応している。病院も近くすぐに受診できる。又、必要時には訪問看護も対応できる。トイレ、廊下には絵画がかけられており、ゆったりと過ごす事ができる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>当事業所は、広い敷地内にある3つの複合サービス施設の中でアットホームな施設として運営されている。建物は平屋で明るく掃除が行き届き清潔感と木の温もりがあり、中庭や併設施設へも自由に行き来できる。職員は、明るくいいきと地域の方や利用者・家族・職員間のコミュニケーションを大切にしながら、利用者が穏やかに、笑顔で安心して過ごせるよう日々のケアに取り組んでいる。緊急や重度化の対応は医療連携が整備され、家族と話し合い希望に沿って看取り介護も行っている。職員が一丸となり、なお一層利用者へのサービス向上を目指し、取り組む姿勢がうかがえる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームでの理念を作り、毎朝、朝礼時に唱和している。又、週目標を決め、日々のケアに繋げている。	玄関ホールの良く見える場所に、法人全体の理念と事業所の理念を掲示している。職員は、事業所の理念をわかり易く具体的に短かな言葉に見直して、毎朝、朝礼時に唱和している。また、毎週、月曜日のリーダーが決めた週目標(健康管理・転倒予防など)を共有して、日々のケアにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	菊花展、フラワーフェスティバルなど市の行事に参加している。ボランティアや獅子舞が来たり、地域との交流を図っている。	菊花展・フラワーフェスティバルなど市主催の行事に参加している。地域との交流は少ないが散歩時に地域の方と挨拶を交わしたり、事業所の夏祭り・クリスマス会などに歌や踊りのボランティア、秋祭りに獅子舞が来たり、交流している。	地域の方やボランティア・認知症サポーターに事業所の行事・イベント時は参加を呼びかけ日常的に交流することで災害時の協力関係や交流につながることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員の方の訪問があるが、外部へ活かす事は難しい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の現状、課題を報告。又、「ねんりんの家便り」を発行しそれを交えて報告。意見や要望を頂き、全職員が共有し、サービスの質の向上に活かしている。	2か月ごとの運営推進会議には、利用者・家族代表・地域住民代表・市担当者・地域包括支援センターから参加して開催している。事業所の現況報告後、参加者から意見や提案をいただき運営に反映している。地震対応の意見から、職員は防災頭巾作成・着用などについて検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方には日頃より、適切な運営などについて相談に応じて頂いている。	法人担当者が市・担当者との窓口であり、直接話し合う機会は少ない。困りごとや相談は併設施設の担当者に相談し解決している。内容により担当者から法人担当者に報告し助言をもらっている。	
		代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け、身体拘束防止に取り組んでいる。	法人全体・事業所独自の研修を行い、職員は身体拘束について正しく理解しており、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関など全ての出入り口にセンサーを取り付けており、施錠はしていない。2ユニットの利用者は日中、1か所に集まり過ごされることが多い。徘徊が予測される利用者には一緒に付き添い落ち着くまで見守りをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、内部研修でもとりあげている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について理解を深めるため研修資料などで学ぶようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談等には家族や本人の不安が軽減するよう、パンフレットや重要事項説明書などを用いて十分に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。重要事項説明書に苦情受付担当者や外部苦情申立機関について明記している。出された苦情については、職員全体で話し合い解決に努めている。	運営推進会議、事業所行事、面会時に家族から聴いた意見・要望・苦情は申し送りノートに記録して職員に周知している。職員で話し合い(例えば、言葉使いなど)迅速に対応し家族の安心と信頼関係につながっている。毎月の利用料の請求書の時に、従来は面会時に渡していた「ねんりんの家便り」とこれからは、職員の異動報告を同封して全家族に郵送するよう施策している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度全体会議を行い、職員の要望、意見等取り入れている。	月1回の職員会議は、併設施設と合同で開催している。参加できない職員は、メモや同僚に意見を伝言している。職員は、議事録を必読して共有している。意見(食事やゴミ処理等)を話し合い、職員間のコミュニケーションを大切にサービス向上に反映できるよう努めている。状況に応じた外部研修に参加できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の努力等を評価し表彰したり昇給や昇進等でやりがいに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度の内部研修を計画的に実施している。職員が順番に講師を務めることでスキルアップにも繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し他の施設の職員との交流・情報交換を行っている。研修後も知り合った施設職員との交流を継続し、自事業所のケアの向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前には、本人にも見学して頂くようお願いし、本人の意向や要望等聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談時、利用申し込みの際に要望など伺いコミュニケーションを図り、信頼関係が築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族にとって最も適したサービスが受けられる様、必要に応じて他のサービスを勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、洗濯など家事を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とコミュニケーションを図り、生活歴等ホームでの生活状況等の情報交換を行い問題発生時などに共に話し合える関係作りをおこなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の公園やお寺等に出掛け、馴染みの場所との繋がりを大事にしている。	家族や友人とは定期的に面会や、地元のお寺・公園などに出かける方もいて、馴染みの人や場所とのつながりを大切に支援されている。家族の協力を得て、外出や毎週末に外泊をされる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の趣味、経歴を職員が把握し利用者同士の間立ち、関係作りの潤滑油になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談に応じるなどの援助を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別で職員が利用者一人ひとりと関わる時間をもち、何を望まれているか等を把握するように努めている。	職員は利用者2～3名を受持制にしている。利用者と日常の関わりの中から意向の把握に努めている。利用者の希望で、利用者は家族と電話で話し合う場面もある。	
		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様と一緒に食事をとりながら話を伺ったり、家族とコミュニケーションを図り生活歴や趣味などを把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、食事摂取量、排泄、睡眠の状態を記録し、一人ひとりの状態が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等で話し合いを行い介護計画を作成している。	モニタリングは毎月1回、管理者が行っている。利用者・家族の希望、個別記録、職員の気づき、情報をカンファレンスで話し合い介護計画を作成している。定期的な見直しは行っていないが、利用者の状態が変化した場合、随時見直ししている。今後、3か月ごとの定期見直しを検討している。	利用者が、今できていることを継続できるように毎月のモニタリングに基づいて利用者個々に合わせた定期的な見直しを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には利用者の言われた言葉をそのまま記入したり、それに対する職員の感想・気づき等を記入し情報を共用する事で介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族ともコミュニケーションを図り、家族や本人の希望に沿った対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の秋祭りの獅子舞や夏祭り、クリスマス会等に歌、踊りのボランティアの方々を招き利用者様に楽しんでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様の不調訴え時、家人様の受診希望時は、かかりつけ医に連絡いつでも受診できるよう支援している。又、協力病院の往診もあり継続的な治療ができるよう支援している。	入居時、利用者は協力医療機関をかかりつけ医にしている。定期往診を月2回受け体調管理ができるよう支援している。他医療機関を受診する場合は、紹介状をもって職員が送迎している。家族・職員は情報を共有できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師は利用者の状態を把握しており、いつでも相談できる関係である。又、訪問看護とも連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合は、病院関係者と連携し状況を把握し早期退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や家族と話し合い、本人にとって最善のケアが受けられるよう支援している。	利用者の状態に変化が見られた場合は、主治医から家族に説明して、利用者・家族が希望する医療が受けられるよう支援している。法人の訪問看護とも密な連携体制もあり、家族の希望に応じて看取り介護も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成。又、勉強会等を行い、全職員が緊急時に対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行い、運営推進会議で実施状況の報告や地域の方の参加協力の呼びかけを行っている。又、関連施設との協力体制を整えている。	年2回、併設施設と合同で夜間想定防火訓練を実施している。利用者は避難訓練に参加しているが、地域の方との協力体制は出来ているが参加までには至っていない。事業所の備蓄品等は、法人が管理している。	毎回の訓練から職員は課題を共有し、次回に反映できる取り組みを期待したい。地域の方やボランティアに、事業所の行事・イベントに参加を呼びかけ、日常的な交流から災害時の避難した利用者の見守りなど役割を具体的に示し、協力関係につながることを期待したい。備蓄物品等の把握も望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は自尊心を傷付けないような対応を常に行っている。又、個人情報の取り扱いには最新の注意を払っている。	入居時、利用者の個人情報(写真撮影・掲示など)に関することは、アンケートで同意を得ている。職員は、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応がうかがえる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思伝達が困難な利用者にもゆっくりとその方に合わせた説明を行い自己決定して頂く場面を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意見を尊重し個人個人の過ごし方を大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時着替えの服を一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備、食器拭きなど利用者様に合わせた家事を一緒にやっている。	献立と食材は法人が準備したものが届いている。事業所は3食の調理を行っている。皮むき、後片付けなど利用者のできることを役割として一緒にしている。利用者個々に合わせ食べやすい食器に盛り付けている。美味しいねと会話しながら楽しそうに食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせ、キザミ・ペースト食などで対応。食事、水分量チェックし低下がみられる時は主治医に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。希望者には訪問歯科による口腔ケアも行っていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録で排泄パターンを把握している。トイレで排泄できるよう援助している。	個別の記録で排泄パターンを把握して、昼間は声かけやトイレ誘導を行い、ほぼ全員トイレで排泄ができるよう支援している。昼間は、布パンツ・パット使用者が多いが、夜間はおむつを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動を行ったり、便秘時には下剤の服用等個人に応じて対応している。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	臨機応変に対応している。	利用者に週2回は、個浴・シャワー浴で入浴を楽しめるよう支援している。拒む時は声かけやタイミングをみながら無理強いせず、利用者に合わせ対応している。現在、嫌がる人もなく全員入浴できている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠気味の利用者には、話し相手をしたり一緒に過ごし自ら寝ると言うまで過ごす事で安心して眠れるよう援助している。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病状に変化があればかかりつけ医に連絡し連携を図っている。服薬一覧表をファイルにまとめすぐ確認できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の下ごしらえや下膳、洗濯たみ等それぞれの力に合わせて、役割ができています。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外遊、ドライブに行き気分転換を図っている。	気候の良い時は、玄関前でお花を眺めたり、周辺を散歩している。年間行事にドライブ・お花見・紅葉狩りなど季節感を取り入れて出かけ、外気浴と気分転換を図っている。併施設と一緒にお買い物(大型商業施設など)や外食に出かけられるよう支援している。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より少量のお金をお預かりしている。買い物等で使用。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかけたがり手紙を投函している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり中庭には花や野菜を植え四季を身近に感じられるようにしている。室内は自然光を取り入れて冬でも陽が当たり暖かい環境になっている。	共用空間は、利用者にとって不快とまらないよう温度・湿度・天窓から自然光をとり入れ明るく清潔で木の温もりが感じられる。壁に飾られた絵や中庭では四季折々が楽しめる。他ユニットや中庭へは自由に行き来でき、利用者は好みの場所に集まり会話を楽しんでいる。ソファ・椅子・畳スペースがあり、夜間畳スペースで仮眠をとる利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、椅子、畳スペースがあり自分の過ごしやすい場所に行き来でき、交流が図れるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具や布団を使用して頂いている。ペットの配置も個人個人に合わせている。	居室には、押入れ・洗面設備・ベッドを設置している。ベッドの配置は、利用者が生活しやすい場所や向きは自由にされている。家族の協力を得て、寝具、タンス、思い出の写真など持ち込まれ落ち着いて安心して過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がなく手すりがついている。転倒防止のため手すりを使って移動していただいている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームでの理念を作り毎朝朝礼時に唱和している。又、週目標を決め日々のケアに繋げている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	菊花展、フラワーフェスティバルなど市の行事に参加している。ボランティアや獅子舞が来たり、地域との交流をはかっている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員の訪問はあるが、外部へ活かす事は難しい。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の現状、課題を報告。又「ねんりの家便り」を発行しそれを交えて報告。意見や要望を頂き、全職員が共有しサービスの質の向上に活かしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方には日頃より適切な運営などについて相談に応じて頂いている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設け、身体拘束防止に取り組んでいる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、内部研修でも取り上げている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について理解を深めるため研修資料などで学ぶようにしている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時には家族や本人の不安が軽減するようパンフレットや重要事項説明書などを用いて十分に説明している。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。重要事項説明書に苦情受付担当者や外部苦情申立機関について明記している。出された苦情については職員全体で話し合い解決に努めている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度全体会議を行い、職員の要望、意見等取り入れている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の努力等を評価し表彰したり、昇給や昇進等でやりがいに努めている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度の内部研修を計画的に実施している。職員が順番に講師を務めることでスキルアップにも繋がっている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し他施設の職員との交流、情報交換を行っている。研修後も知り合った他施設職員との交流を継続し自事業所のケアの向上を図っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前には、本人にも見学して頂くようお願いし、本人の意向や要望等聞くようにしている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談時、利用申し込みの際に要望など伺い、コミュニケーションを図り信頼関係が築けるよう努力している。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族にとって最も適したサービスが受けられるよう必要に応じて他のサービス利用も勧めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、洗濯など家事も一緒に行っている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とコミュニケーションを図り、生活歴等ホームでの生活状況等の情報交換を行い、問題発生時などに共に話しあえる関係作りを行っている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の公園やお寺等に出掛け、馴染みの場所との繋がりを大事にしている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の趣味、経歴を職員が把握し、利用者同士の間に関係作りの潤滑油になっている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談に応じるなどの援助を継続している。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別で職員が利用者一人ひとりと関わる時間をもち、何を望まれているか等を把握するよう努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様と一緒に食事をとりながら話を伺ったり、家族とコミュニケーションを図り生活歴や趣味などを把握できるように努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、食事摂取量、排泄、睡眠の状態を記録し、一人ひとりの状態が把握できるようにしている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等で話し合いを行い、介護計画を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には利用者の言われた言葉をそのまま記入したり、それに対する職員の感想、気づき等を記入し情報を共有する事で、介護計画の見直しに活かしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族ともコミュニケーションを図り、家族や本人の希望に沿った対応に努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の秋祭りの獅子舞や夏祭り、クリスマス会等に歌、踊りのボランティアの方々を招き利用者様に楽しんでいただいている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様の不調訴え時、家人様の受診希望時は、かかりつけ医に連絡いつでも受診できるよう支援している。又、協力病院の往診もあり継続的な治療が出来るよう支援している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師は、利用者の状態を把握しており、いつでも相談できる関係である。又、訪問看護とも連携を図っている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合は、病院関係者と連携し状況を把握し早期退院できるよう支援している。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や家族と話し合い、本人にとって最善のケアが受けられるよう支援している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成、又、勉強会を行い全職員が緊急時に対応できるよう努めている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行い、運営推進会議で実施状況の報告や地域の方の参加協力の呼びかけを行っている。又、関連施設との協力体制を整えている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は自尊心を傷つけないような対応を常に行っている。又、個人情報の取り扱いには細心の注意を払っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思伝達の困難な利用者にもゆっくりとその方にあわせた説明を行い、自己決定して頂く場面を作るようにしている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思を尊重し個人個人の過ごし方を大事にしている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、着替えの服を一緒に選らんでいる。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備、食器拭きなど利用者様に合わせた家事を一緒に行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせ、キザミ、ペースト食などで対応。食事、水分量チェックし低下がみられる時は主治医に相談している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。希望者には訪問歯科による口腔ケアも行っていたい

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録で排泄パターンを把握している。トイレで排泄できるよう援助している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動を行ったり、便秘時には下剤の服用等個人に応じて対応している。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	臨機応変に対応している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠気味の利用者には、話相手をしたり、一緒に過ごし自ら寝ると言うまで過ごし安心して眠れるよう援助している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病状に変化があればかかりつけ医に連絡し連携を図っている。服薬一覧表をファイルにまとめ、すぐに確認できるようにしている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の下ごしらえや下膳、洗濯たたみ等それぞれの力に合わせて役割ができている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外遊、ドライブに行き気分転換を図っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より少額のお金をお預かりしている。買い物等で使用。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかけたり手紙を投函している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり中庭には花や野菜を植え四季を身近に感じられるようにしている。室内は自然光をとり入れて冬でも陽があたり暖かい環境になっている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、椅子、畳スペースがあり自分の過ごしやすい場所に行き来でき、交流が図れるようになっている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具や布団を使用して頂いている。ベットの配置も個人個人にあわせている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がなく手すりがついている。転倒防止のため手すりを持って移動していただいている。